

第11回 日本体験コンテストin大韓民国 実施報告

表彰日時：2009年9月27日（土）15：00～15：30

開催場所：韓国ソウル市 ロッテホテル 36階

主 催：（財）共立国際交流奨学財団

後 援：文部科学省、

駐大韓民国日本国大使館公報文化院、東亞日報

協 賛：（株）共立メンテナンス

応募総数 49 名、2009 年 9 月 27 日（土）
韓国ソウル市のロッテホテルにて表彰式が
おこなわれ、「夢・日本体験賞」に入賞した
5 名には、入賞賞品として企画実現のため
30 万円が授与された。



入賞者（5名）と企画概要報告 テーマ「日本で実現したい夢」「日本で体験したい事」

① 車 英實（チャ ヨンシル） 慶熙大学 東アジア語学部 日本語学科

テーマ：「11*18の中の日本」－日本のマンガ、それからそのマンガでみられるグルメ世界－

子供の頃から大人になった今も私はよく日本のマンガを読んでいる。その理由は日本のマンガにはなぜか飽きない魅力があるからだ。日本のマンガはいうまでもなく世界各地で愛読されているし、マンガを読むことで日本の姿を疑似体験することもできる。特にグルメマンガを読むとその食に対する情熱とすごさに驚いてしまう。今回、私はこの機会を通して想像だけであったこのテーマを二つの点で体験したいと思う。ひとつはマンガの過去、現在、未来を調べる。もう一つはグルメマンガで描かれていた実在の店に行き料理を楽しむことである。二つの経験を通してマンガの主人公になった気持ちを満喫してみたい。

② 金 恵榮（キム ヘヨン） 仁荷大学校 国際通商学部 日本通商

テーマ：「花より男子？花より団子！」

初めて日本と日本語に興味を持つようになったきっかけは、花より男子というドラマのためでした。特に、ドラマの中で、女の主人公が働いている和菓子屋さんの美しい形の団子や餅、上菓子などの和菓子を見て、感心しました。それは、芸術品のように見た目がとても綺麗で、食べるのがもったいないと思えました。和菓子は季節によって色んな種類がありますし、体にもいいものがたくさん入っているととても健康的な日本の伝統の食べ物です。そして、作る職人の丁寧な心がこめられています。それで、私は実際に和菓子を作ってみようと思い、今回の計画を立てるようになりました。見た目がとても美しく繊細で、私にもできるかと少し心配ですが、和菓子の作り体験を通して、日本の伝統文化に触れ合ういい機会になると思います。

③ 李 承桓（リ スンフワン） 韓國外國語大学校 東洋語大学 中國語科

テーマ：「時代の流れまで止めさせた伝統～相撲」

個人的にスポーツマーケティングに興味があって将来はその方面の進路を目指している。そんな私にとっては、韓国のシルムのように、伝統スポーツが商業化しようとする時ほとんど失敗していること、一方、日本の大相撲は大きな人気を謳歌しているのは意味深いことだった。今回の探訪を通じて大相撲が興行において成功できた原因を多方面で調べ、参考にしたいと思う。本件の基本方向は韓国のプロシルムと大相撲において、その政策を比較・対照し、大相撲が競争力を持つことができた秘訣を総体的観点から究明した後、それが実際にどんな効果を与えられたその詳細を調査しようとする。また、その政策だけではなく、大相撲が及ぼした影響を知るために、外国人力士との相談、部屋訪問等の多方面の体験をしてみたいと思う。それに、理論に埋没されるのではなく、実際に大相撲を観戦するなどの活動を通じてその熱気を直接感じてみる。

④ 金 珠英 (キム ジュヨン) 慶尚大学校 経済学科 4年

テーマ：「人々を魅了するその美しさ」

私には、今もあの時の記憶がはっきり残っています。それはうちにホームステイに来た、私にとっては初めての日本人の友人との思い出です。その時、私は友達に韓国の伝統衣装のチマ・チョゴリを着させてあげました。私は着方を知らなかったの、母に手伝ってもらいました。私は韓国人女性にとって最も伝統的である衣装の着方すら知らなかった自分がとても恥ずかしかったです。そして私はその友人からもらった浴衣をきっかけで日本の着物について興味を持つことになりました。でも今もその浴衣綺麗に着ることはできません。今も伝統を守り続けている着物はみんなに愛され認められています。私はその着物について、学びたいとずっと思っていました。日本の着物教室などでは、資格取得のための授業はもちろん、外見だけではなく、着物を着たときのマナー、和の考え方など、実に多くの事が学べるようになっていきます。世界にその美しさを認められている着物、人々を魅了するその美しさを学びたいです。世代を越えて、伝統を残して行くには、もっともっと若者が興味を持ち、身近な存在として、人々に愛させてもらう事が必要だと私は考えます。そして今よりもっと、我が国の伝統文化が世界に知られ、愛させる日が来ると願っています。私のこの一歩がその原点といえるものに出来たら、それは私の夢であり我が国の誇りとなる事でしょう。

⑤ 李 鐘碩 (イ チョンソク) 成均館大学 社会科学部 政治外交学科

テーマ：「多文化共生教育の現場に行こう」

国内に居住している外国人の数が 100 万人を超え、韓国も多文化社会、または多民族国家になりつつある。日本の外国人政策、特に外国人の子どもたちの教育について調査研究をしてみようと思う。このような目的を達成するため東京新宿区大久保小学校、川崎市ふれあい館、東京多文化フリースクールの調査、参観、インタビューを実施する。また、日本の地方自治団体、公教育機関、市民社会が外国人の子どもたちの教育問題をどのように解決しようとしているかについて体験活動を通じて理解しようと思う。



後列左より車英實、金恵榮、李承桓、金珠英、李鐘碩

前列左より李康民審査委員、黒田審査委員、須郷選考委員長、菊川選考委員